

四半期報告書

(第40期第2四半期)

ジョルダン株式会社

四 半 期 報 告 書

- 1 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

頁

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	3
第2 【事業の状況】	4
1 【事業等のリスク】	4
2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	4
3 【経営上の重要な契約等】	6
第3 【提出会社の状況】	7
1 【株式等の状況】	7
2 【役員の状況】	9
第4 【経理の状況】	10
1 【四半期連結財務諸表】	11
2 【その他】	20
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	21

四半期レビュー報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 令和元年5月15日

【四半期会計期間】 第40期第2四半期(自 平成31年1月1日 至 平成31年3月31日)

【会社名】 ジョルダン株式会社

【英訳名】 Jorudan Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 佐藤俊和

【本店の所在の場所】 東京都新宿区新宿二丁目5番10号

【電話番号】 03(5369)4051 (代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員経営企画室長 岩田一輝

【最寄りの連絡場所】 東京都新宿区新宿二丁目5番10号

【電話番号】 03(5369)4051 (代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員経営企画室長 岩田一輝

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第39期 第2四半期連結 累計期間	第40期 第2四半期連結 累計期間	第39期
会計期間	自 平成29年 10月1日 至 平成30年 3月31日	自 平成30年 10月1日 至 平成31年 3月31日	自 平成29年 10月1日 至 平成30年 9月30日
売上高 (千円)	2,088,743	2,218,556	4,005,648
経常利益 (千円)	214,836	234,411	269,224
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	117,678	122,180	126,311
四半期包括利益又は 包括利益 (千円)	97,767	112,084	109,581
純資産額 (千円)	4,652,970	4,710,075	4,664,784
総資産額 (千円)	5,506,851	5,767,955	5,559,702
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	22.94	23.81	24.62
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	84.3	81.5	83.7
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	11,799	△99,650	288,431
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△74,174	△97,688	△160,904
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	△66,604	△64,603	△66,645
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	3,260,009	3,201,132	3,471,211

回次	第39期 第2四半期連結 会計期間	第40期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自 平成30年 1月1日 至 平成30年 3月31日	自 平成31年 1月1日 至 平成31年 3月31日
1株当たり四半期 純利益金額 (円)	16.61	26.67

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額につきましては、潜在株式がないため記載しておりません。
- 4 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等になっております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営んでいる事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当第2四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間（平成30年10月1日～平成31年3月31日）におけるわが国経済は、景気の一部に弱さが見られるものの緩やかな回復が続いてまいりましたが、一方で通商問題の動向等を含め、海外経済の不確実性等に留意が必要な状況となってまいりました。

情報通信業界におきましては、企業のソフトウェア投資は概ね横ばいから若干の増加傾向となっており、情報サービス業及びインターネット附随サービス業の売上高についても前年同四半期（平成29年10月1日～平成30年3月31日）と比べ増加傾向となりました。また、1世帯当たりのインターネットを利用した支出についても前年同四半期と比べ増加となりました。このような中、スマートフォンの更なる普及（特にSIMフリースマートフォンの普及）に加え、IoT（モノのインターネット）の進展やAI（人工知能）技術の進化等、情報通信に関する市場環境の変化は更に加速してまいりました。また、交通サービスの領域におきましても、「MaaS (Mobility as a Service)」（モビリティのサービス化）の流れが徐々に進展してまいりました。

当社グループにおきましても、この市場環境の変化に対応した事業展開のための基盤整備に取り組んでまいりました。「乗換案内」の各種インターネットサービス（携帯電話サイト・スマートフォンアプリ・スマートフォンサイト・PCサイト）の検索回数は、平成31年3月には月間約2億3,300万回となっており、多くの方々に広くご利用いただいております。

このような環境の中で、当第2四半期連結累計期間における当社グループの売上高は2,218,556千円（前年同四半期比6.2%増）、営業利益は233,742千円（前年同四半期比8.4%減）、経常利益は234,411千円（前年同四半期比9.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は122,180千円（前年同四半期比3.8%増）という経営成績となりました。

売上高につきましては、乗換案内事業セグメントの売上高が大きく増加し、加えてその他セグメントの売上高も増加いたしました。これらが、マルチメディア事業セグメントの売上高の減少を上回ったこと等により、売上高は全体として前年同四半期と比べ大きく増加いたしました。営業利益につきましては、マルチメディア事業セグメントの利益の減少（損失の増加）が、その他セグメントの利益の増加を上回ったこと等により、全体として前年同四半期と比べ減少いたしました。一方で、営業外収益の増加や営業外費用の減少（中でも持分法による投資損益の改善）等の影響があり、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、前年同四半期と比べ増加いたしました。

セグメント別の経営成績の状況は、次のとおりです。

乗換案内事業

乗換案内事業では、モバイル向け有料サービスの売上高は前年同四半期と比べ減少したものの、一方で、法人向けの事業において新たにバスロケーションシステムの提供を開始したこと等によりその売上高が大きく増加し、加えて旅行関連の事業や広告等の売上高も増加いたしました。それらの影響により、乗換案内事業全体の売上高は前年同四半期と比べ大きく増加いたしました。費用面では、旅行関連事業の売上高や原価率の増加に伴う仕入高の増加や、今後の事業展開を見据えた費用の増加等の影響も生じており、乗換案内事業全体の利益は前年同四半期と同程度となりました。

それらの結果、乗換案内事業全体としては売上高2,074,505千円（前年同四半期比6.0%増）、セグメント利益351,413千円（前年同四半期比0.7%減）となりました。

マルチメディア事業

マルチメディア事業では、出版関連の事業が順調に推移せず、売上高は前年同四半期と比べ減少いたしました。その影響で、損益面でも損失が発生いたしました。

それらの結果、売上高51,177千円（前年同四半期比31.3%減）、セグメント損失21,781千円（前年同四半期は12,910千円の利益）となりました。

その他

受託ソフトウェア開発等の事業におきましては、案件の受注・納品が順調に推移したこと等により、売上高は前年同四半期と比べ増加いたしました。また、その影響等により、利益につきましても前年同四半期と比べ増加いたしました。

それらの結果、売上高118,283千円（前年同四半期比32.0%増）、セグメント利益39,574千円（前年同四半期比66.1%増）となりました。

なお、上記のセグメント別の売上高は、セグメント間の内部売上高を相殺しておりません。また、セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書における営業利益をベースとしておりますが、各報告セグメントに配分していない全社費用及びセグメント間の内部取引費用の控除前の数値であり、合計は連結営業利益と一致しておりません。

(2) 財政状態の状況

当第2四半期連結会計期間末における財政状態は、前連結会計年度末（平成30年9月末）と比較しますと、資産は208,252千円増の5,767,955千円、負債は162,961千円増の1,057,879千円、純資産は45,291千円増の4,710,075千円となりました。

資産

資産は、流動資産につきましては、132,731千円増の4,453,416千円となりました。これは、受取手形及び売掛金が292,187千円増の786,725千円、前渡金が66,827千円増の257,196千円となった影響が、現金及び預金が259,579千円減の3,263,695千円となった影響を上回ったこと等によるものです。受取手形及び売掛金の増加は、多くの企業や自治体等の年度末となるため3月の売上高が増加すること等によるものです。前渡金の増加は、旅行関連の仕入に係る前渡金が増加したこと等によるものです。現金及び預金の減少は、配当金、賞与及び法人税等の支払並びに固定資産の取得等によるものです。

固定資産につきましては、75,521千円増の1,314,538千円となりました。これは、有形固定資産が37,180千円増の242,669千円、無形固定資産が6,237千円減の113,061千円、投資その他の資産が44,578千円増の958,808千円となったことによるものです。有形固定資産は、工具、器具及び備品の取得等により、増加いたしました。無形固定資産は、主に償却が進んでいることにより、やや減少いたしました。投資その他の資産は、その他に含まれる長期前払費用の増加等により、増加いたしました。

負債

負債は、流動負債につきましては、162,710千円増の1,050,245千円となりました。これは、支払手形及び買掛金が86,278千円増の265,412千円、未払法人税等が43,327千円増の110,832千円、前受金が50,507千円増の484,629千円となったこと等によるものです。支払手形及び買掛金の増加は、3月の売上高の増加に対応した売上原価の増加等によるものです。未払法人税等の増加は、前連結会計年度の下半期の利益よりも、当第2四半期連結累計期間の利益が多かったこと等によるものです。前受金の増加は、旅行関連の売上に係る前受金が増加したこと等によるものです。

固定負債につきましては、大きな増減は無く、251千円増の7,634千円となりました。

純資産

純資産は、株主資本につきましては、55,482千円増の4,653,166千円となりました。これは、利益剰余金が55,482千円増の4,187,614千円となったことによるものです。利益剰余金の増加は、親会社株主に帰属する四半期純利益が剰余金の配当を上回ったことによるものです。

その他の包括利益累計額につきましては、9,412千円減の46,746千円となりました。これは、その他有価証券評価差額金が6,034千円減の13,604千円、為替換算調整勘定が3,378千円減の33,141千円となったことによるものです。

非支配株主持分につきましては、779千円減の10,162千円となりました。これは、対象となる連結子会社における損失の発生等によるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末と比べ270,079千円減の3,201,132千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とその要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは99,650千円の支出（前年同四半期は11,799千円の収入）となりました。

前年同四半期と比べての変動の要因は、売上債権の増加額が148,434千円増の292,187千円、前渡金の増加額が66,827千円（前年同四半期は減少額が39,057千円でその差105,885千円）、その他の営業活動によるキャッシュ・フローが△58,647千円（前年同四半期は6,091千円でその差64,738千円）となった影響が、前受金の増加額が50,507千円（前年同四半期は減少額が107,252千円でその差157,759千円）、仕入債務の増加額が53,242千円増の86,520千円となった影響を上回ったこと等です。

売上債権の増加額が増えた主要因は、第2四半期連結会計期間の売上が前年同四半期と比べ増加したことです。前渡金の増加額が増えた主要因は、旅行関連の仕入に係る前渡金が増加したことです。その他の営業活動によるキャッシュ・フローの変動の主要因は、長期前払費用が増加したことです。前受金の増加額が増えた主要因は、旅行関連の売上に係る前受金が増加したことです。仕入債務の増加額が増えた主要因は、第2四半期連結会計期間の売上原価が前年同四半期と比べ増加したことです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは97,688千円の支出（前年同四半期比31.7%増）となりました。

前年同四半期と比べての変動の要因は、有形固定資産の取得による支出が53,445千円増の62,984千円となった影響が、前年同四半期に長期貸付けによる支出が20,000千円だったものが無くなり、敷金及び保証金の差入による支出が10,461千円減の2,719千円となった影響を上回ったこと等です。

有形固定資産の取得による支出は、工具、器具及び備品の取得が増加したこと等により増加いたしました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは64,603千円の支出（前年同四半期比3.0%減）となりました。

前年同四半期と比べ、大きな変動はありませんでした。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は19,598千円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	19,000,000
計	19,000,000

② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成31年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (令和元年5月15日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	5,255,000	5,255,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	5,255,000	5,255,000	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成31年1月1日～ 平成31年3月31日	—	5,255,000	—	277,375	—	284,375

(5) 【大株主の状況】

平成31年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の総数 に対する所有 株式数の割合 (%)
佐藤俊和	東京都新宿区	2,627	51.22
ビービーエイチフオーフィデリ テイロープライズドストックフ アンド (プリンシパルオールセ クターサブポートフォリオ) (常任代理人 株式会社三菱U F J銀行)	245 SUMMER STREET BOSTON, MA 02210 U. S. A. (東京都千代田区丸の内2丁目7-1)	359	7.00
坂口京	東京都練馬区	333	6.51
ジョルダン従業員持株会	東京都新宿区新宿2丁目5-10	194	3.80
株式会社エムティーアイ	東京都新宿区西新宿3丁目20-2	189	3.70
岩田明夫	愛知県春日井市	120	2.34
佐藤照子	東京都新宿区	90	1.75
小田恭司	千葉県船橋市	74	1.45
若杉精三郎	大分県別府市	69	1.36
株式会社光通信	東京都豊島区西池袋1丁目4-10	69	1.34
計	—	4,128	80.47

(注) 1 上記のほか当社所有の自己株式124千株があります。

2 平成31年4月4日付で関東財務局長に提出された大量保有報告書(変更報告書)において、エフエムアールエルエルシーが平成31年3月29日現在で以下の株式を所有している旨が記載されておりますが、当社として平成31年3月31日現在における当該法人名義の実質所有株式数の確認ができておりませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、大量保有報告書(変更報告書)の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
エフエムアール エルエルシー	米国 02210 マサチューセッツ州ボストン、 サマー・ストリート245	366	6.97

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成31年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 124,400	—	単元株式数 100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,129,900	51,299	同上
単元未満株式	普通株式 700	—	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	5,255,000	—	—
総株主の議決権	—	51,299	—

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式43株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成31年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) ジョルダン株式会社	東京都新宿区新宿2丁目 5番10号	124,400	—	124,400	2.37
計	—	124,400	—	124,400	2.37

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成31年1月1日から平成31年3月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成30年10月1日から平成31年3月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成31年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,523,274	3,263,695
受取手形及び売掛金	494,538	786,725
商品及び製品	26,975	39,085
仕掛品	4,723	18,594
原材料及び貯蔵品	85	107
前渡金	190,368	257,196
その他	91,435	97,497
貸倒引当金	△10,716	△9,486
流動資産合計	4,320,685	4,453,416
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	49,302	47,468
機械装置及び運搬具（純額）	5,833	4,862
工具、器具及び備品（純額）	62,275	103,116
土地	88,077	87,222
有形固定資産合計	205,489	242,669
無形固定資産		
ソフトウェア	116,800	110,563
その他	2,498	2,498
無形固定資産合計	119,298	113,061
投資その他の資産		
投資有価証券	553,548	546,717
敷金及び保証金	242,859	243,206
長期貸付金	72,440	82,440
繰延税金資産	45,072	39,052
その他	17,044	66,199
貸倒引当金	△16,735	△18,807
投資その他の資産合計	914,229	958,808
固定資産合計	1,239,017	1,314,538
資産合計	5,559,702	5,767,955

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成31年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	179,133	265,412
未払費用	80,050	80,542
未払法人税等	67,505	110,832
未払消費税等	15,883	21,520
前受金	434,122	484,629
賞与引当金	67,816	44,918
役員賞与引当金	3,600	1,500
返品調整引当金	6,226	6,968
ポイント引当金	2,978	3,292
受注損失引当金	-	12
その他	30,219	30,618
流動負債合計	887,535	1,050,245
固定負債		
ポイント引当金	2,383	2,634
その他	5,000	5,000
固定負債合計	7,383	7,634
負債合計	894,918	1,057,879
純資産の部		
株主資本		
資本金	277,375	277,375
資本剰余金	287,291	287,291
利益剰余金	4,132,131	4,187,614
自己株式	△99,115	△99,115
株主資本合計	4,597,683	4,653,166
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	19,639	13,604
為替換算調整勘定	36,520	33,141
その他の包括利益累計額合計	56,159	46,746
非支配株主持分	10,941	10,162
純資産合計	4,664,784	4,710,075
負債純資産合計	5,559,702	5,767,955

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年10月1日 至平成31年3月31日)
売上高	2,088,743	2,218,556
売上原価	1,155,468	1,270,339
売上総利益	933,274	948,217
返品調整引当金戻入額	10,524	6,226
返品調整引当金繰入額	10,957	6,968
差引売上総利益	932,841	947,475
販売費及び一般管理費	※ 677,604	※ 713,732
営業利益	255,237	233,742
営業外収益		
受取利息	1,256	1,527
受取配当金	896	896
持分法による投資利益	-	5,670
受取事務手数料	166	166
雑収入	249	450
営業外収益合計	2,568	8,710
営業外費用		
持分法による投資損失	19,302	-
投資事業組合運用損	1,150	1,104
為替差損	13,216	6,937
貸倒引当金繰入額	9,000	-
雑損失	300	0
営業外費用合計	42,969	8,042
経常利益	214,836	234,411
特別利益		
固定資産売却益	815	-
特別利益合計	815	-
特別損失		
固定資産除却損	-	1
減損損失	-	824
投資有価証券評価損	-	5,773
特別損失合計	-	6,598
税金等調整前四半期純利益	215,652	227,812
法人税等合計	96,174	106,315
四半期純利益	119,478	121,496
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	1,799	△683
親会社株主に帰属する四半期純利益	117,678	122,180

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年10月1日 至平成31年3月31日)
四半期純利益	119,478	121,496
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,320	310
為替換算調整勘定	△8,436	△3,301
持分法適用会社に対する持分相当額	△11,952	△6,422
その他の包括利益合計	△21,710	△9,412
四半期包括利益	97,767	112,084
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	95,967	112,767
非支配株主に係る四半期包括利益	1,799	△683

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年10月1日 至平成31年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	215,652	227,812
減価償却費	49,022	53,656
減損損失	-	824
のれん償却額	1,959	-
持分法による投資損益(△は益)	19,302	△5,670
貸倒引当金の増減額(△は減少)	9,513	841
返品調整引当金の増減額(△は減少)	433	742
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△186	565
賞与引当金の増減額(△は減少)	△39,950	△22,898
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△4,200	△2,100
受注損失引当金の増減額(△は減少)	△3,534	12
受取利息及び受取配当金	△2,152	△2,423
売上債権の増減額(△は増加)	△143,752	△292,187
前受金の増減額(△は減少)	△107,252	50,507
たな卸資産の増減額(△は増加)	△14,314	△26,002
仕入債務の増減額(△は減少)	33,277	86,520
前渡金の増減額(△は増加)	39,057	△66,827
未払費用の増減額(△は減少)	△10,022	496
未払消費税等の増減額(△は減少)	5,568	5,634
固定資産売却損益(△は益)	△815	-
投資有価証券評価損益(△は益)	-	5,773
投資事業組合運用損益(△は益)	1,150	1,104
関係会社株式売却損益(△は益)	9,793	-
その他	6,091	△58,647
小計	64,640	△42,265
利息及び配当金の受取額	1,468	1,438
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△54,308	△58,823
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,799	△99,650

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年10月1日 至平成31年3月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△24,303	△26,103
定期預金の払戻による収入	21,603	20,403
有形固定資産の取得による支出	△9,539	△62,984
有形固定資産の売却による収入	2,766	-
無形固定資産の取得による支出	△31,521	△23,962
短期貸付けによる支出	-	△2,320
長期貸付けによる支出	△20,000	-
敷金及び保証金の差入による支出	△13,181	△2,719
投資活動によるキャッシュ・フロー	△74,174	△97,688
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	-	2,000
配当金の支払額	△66,604	△66,507
非支配株主への配当金の支払額	-	△95
財務活動によるキャッシュ・フロー	△66,604	△64,603
現金及び現金同等物に係る換算差額	△16,854	△8,137
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△145,835	△270,079
現金及び現金同等物の期首残高	3,405,844	3,471,211
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 3,260,009	※ 3,201,132

【注記事項】

(追加情報)

当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年10月1日 至 平成31年3月31日)
「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結損益計算書関係)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成29年10月1日 至 平成30年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年10月1日 至 平成31年3月31日)
給料手当	239,146千円	242,164千円
賞与引当金繰入額	20,731千円	24,192千円
役員賞与引当金繰入額	1,800千円	1,500千円
広告宣伝費	64,535千円	71,186千円
減価償却費	18,238千円	19,750千円
貸倒引当金繰入額	1,057千円	1,226千円
支払手数料	63,455千円	66,253千円
のれん償却額	1,959千円	—

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成29年10月1日 至 平成30年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成30年10月1日 至 平成31年3月31日)
現金及び預金	3,306,970千円	3,263,695千円
預入期間が3か月を超える 定期預金	△46,960千円	△62,563千円
現金及び現金同等物	3,260,009千円	3,201,132千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成29年10月1日 至 平成30年3月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年12月22日 定時株主総会	普通株式	66,697	13.00	平成29年9月30日	平成29年12月25日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成30年10月1日 至 平成31年3月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年12月21日 定時株主総会	普通株式	66,697	13.00	平成30年9月30日	平成30年12月25日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成29年10月1日 至 平成30年3月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	乗換案内事業	マルチ メディア事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	1,957,171	74,470	2,031,642	57,100	—	2,088,743
セグメント間の内部 売上高又は振替高	107	—	107	32,506	△32,613	—
計	1,957,279	74,470	2,031,749	89,607	△32,613	2,088,743
セグメント利益	353,861	12,910	366,771	23,830	△135,365	255,237

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、受託開発ソフトウェア業、情報関連機器リース業等を含んでおります。
- 2 セグメント利益の調整額△135,365千円には、のれん償却額△1,959千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△133,405円が含まれております。
- 3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 平成30年10月1日 至 平成31年3月31日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	乗換案内事業	マルチ メディア事業	計			
売上高						
外部顧客への売上高	2,074,394	51,177	2,125,572	92,984	—	2,218,556
セグメント間の内部 売上高又は振替高	111	—	111	25,298	△25,410	—
計	2,074,505	51,177	2,125,683	118,283	△25,410	2,218,556
セグメント利益 又は損失(△)	351,413	△21,781	329,631	39,574	△135,463	233,742

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、受託開発ソフトウェア業、情報関連機器リース業等を含んでおります。
- 2 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。
- 3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(企業結合等関係)
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年10月1日 至平成30年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年10月1日 至平成31年3月31日)
1株当たり四半期純利益金額	22円94銭	23円81銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	117,678	122,180
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	117,678	122,180
普通株式の期中平均株式数(千株)	5,130	5,130

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)
該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

令和元年5月15日

ジョルダン株式会社
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大田原吉隆

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 西口昌宏

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているジョルダン株式会社の平成30年10月1日から令和元年9月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成31年1月1日から平成31年3月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成30年10月1日から平成31年3月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ジョルダン株式会社及び連結子会社の平成31年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	令和元年5月15日
【会社名】	ジョルダン株式会社
【英訳名】	Jorudan Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 佐藤俊和
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	東京都新宿区新宿二丁目5番10号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長佐藤俊和は、当社の第40期第2四半期（自 平成31年1月1日 至 平成31年3月31日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。